

環境と健康に関する国際的な取り組みと健康都市活動について

東京医科歯科大学客員教授・
前WHO西太平洋地域事務局環境保健アドバイザー
小川 尚

第8回健康都市連合日本支部総会大会
平成24年8月7日

“環境と健康” 問題の変遷

- 1970年以前 – 安全な飲料水や衛生的なトイレの確保、生活ごみの排除処理
- 1970年ごろ – 産業活動の活発化に伴う環境汚染（公害問題）
- 1980年代 – 快適環境への指向
- 1990年以降 – 地球規模の環境問題（地球温暖化、オゾン層の破壊、生態系の破壊）

環境リスクファクター

ローカル:

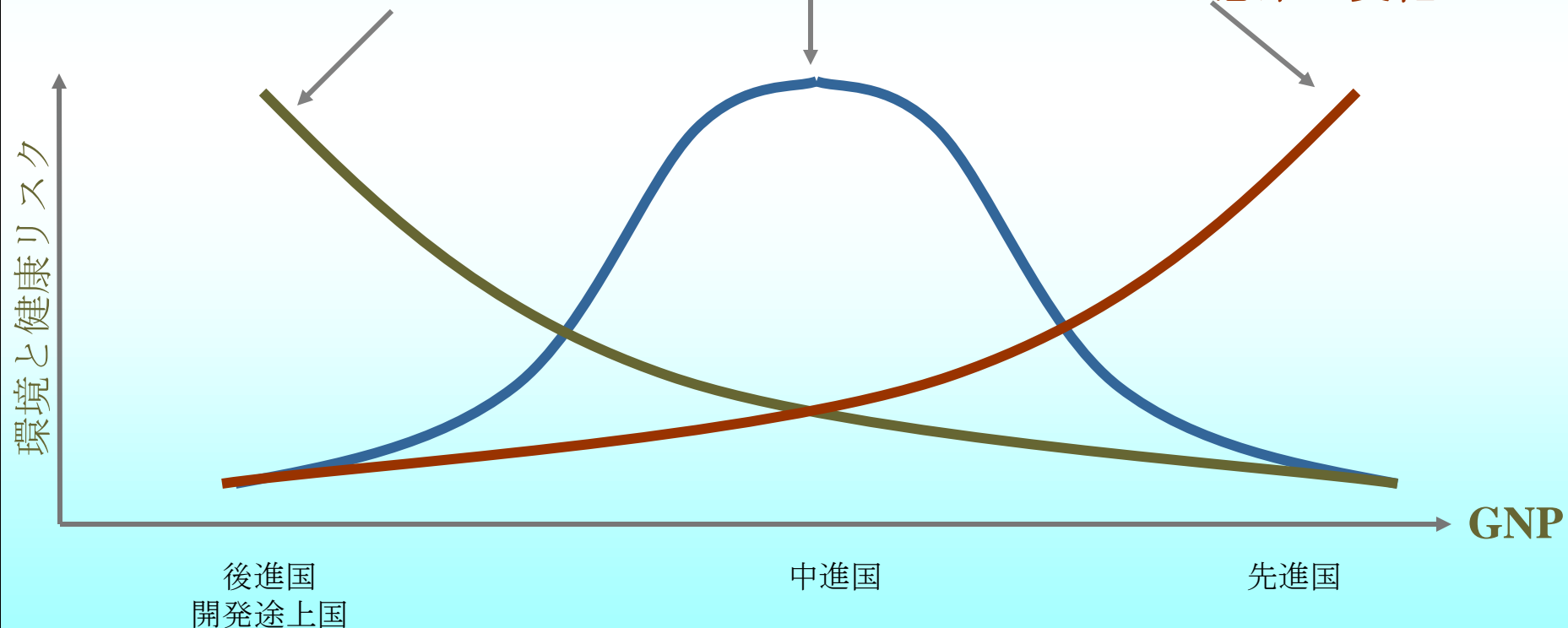
飲料水と衛生
家内空気汚染

リージョナル:

化学物質 大気汚染
職場でのハザード

グローバル:

気候変動
紫外線
生態系の変化



環境に関する国際会議

- 1972年 – 国連人間環境会議 ストックホルム (越境大気汚染、酸性雨、国連環境の日[6月5日]設定)
- 1992年 – 環境と開発に関する国連会議 地球サミット
リオデジャネイロ (気候変動、オゾン層の破壊、生物多様性、国際河川などの国際条約、アジェンダ21の採択)
- 2002年 – 持続可能な開発に関する世界会議 ヨハネスブルグ (水、エネルギー、健康、農業、生物多様性)
- 2012年 – 国連持続可能な開発会議 リオデジャネイロ
(グリーン経済、国際環境ガヴァナンス)

グリーン経済

- “環境か経済発展か” から “環境も経済発展も” への転換。環境にも経済にも便益のある発展、持続可能な開発。
- 温暖化ガスを減らす技術やシステムを使ったり、廃棄物のリサイクルを促すような経済活動

グリーン経済と健康都市

- 健康都市連合憲章に“持続可能な発展を目指す”とあり、グリーン経済の理念と一致する。
- つまり、環境にも、経済にも、健康にも便益のある事業で都市社会と構築すること。
- 例えば、都市交通を自転車や徒歩による移動をサポートするようなものにする、都市計画や建築物の規制によって公園や樹木を増やすとか太陽光発電を増やすなど。

都市交通の環境と健康への影響



- 自動車による移動
 - 大気汚染や温暖化の原因
 - 交通事故
 - 騒音、振動
 - 混雑、渋滞
 - 運動不足
- 徒歩や自転車による移動
 - 運動
 - 大気汚染物質や温暖化ガスを排出しない。騒音、振動も起こさない。
 - 交通事故の被害を受けやすい。

環境にも健康にも良い都市交通 (ESHUT)

- 自転車や徒歩による移動の促進。
- 効率的でアクセスの良い公共交通機関（バス、鉄道など）の提供。
- 自家用車の使用を減らす。
- 公共交通機関での喫煙の規制や、身体障害者の利用を促す環境をつくる。



カンボジア プノンペン – 歩道、公園の整備や自転車利用のキャンペーン



フィリピン マリキナ - 自転車利用の促進

安全走行の講習



自転車道の整備



駐輪場の設置



自転車フェスティバル



韓国 ソウル – 自動車中心社会からの脱皮

チョンゲチョン川上部の道路の撤去と河川改修



禁煙バス停

